

論文

流行語に見られる文法的バリエーションに関する考察

張 黎¹

A Study on the Grammatical Variation of Catchwords

Li ZHANG¹

Abstract

Based on syntactic and semantic analysis of catchwords coined after 2000, this study clarifies de-categorization of words from the perspective of grammatical variation. The findings are: 1) de-categorization of nouns exists in “N+*l*tu *teru*” and “N+*na*+N”; 2) de-categorization of adjectives are realized by “*wo*” “*de*” in case-auxiliary words that follow; 3) the meaning of “*nau*” distributes in “*ni*” in accompanying case-auxiliary words, in nouns, gerunds and predicates. “*nau*” is interchangeable with “*~toki* (*baai*)” in case-auxiliary “*ni*”, with “*ima ~ ni iru*” in nouns and gerunds when followed by nouns of location, and with “*~no ima*” when followed by nouns having to do with people. When followed by gerunds, “*nau*” is interchangeable with “*~tyuu*” with durative verbs, but not so with momentary verbs. When followed by adjectives, “*nau*” indicates “the state it is in”. Thus nouns and adjectives develop new semantic function and realize grammatical variation through de-categorization. Furthermore “*nau*” changes from content word into function word and grammatical variation is achieved through semantic de-categorization.

キーワード バリエーション 脱カテゴリー化 統語的特徴 意味的特徴

Keywords: variation, de-categorization, syntactic features, semantic features

1. はじめに

これまでの流行語に関する研究は社会的側面、文化的側面、心理的側面と結び付けて、語彙論の観点からなされるものが多い。しかし、文法的バリエーションの観点から、流行語が統語的にどのようなバリエーションを持つかという観点からの記述はまだ少ないようである。本稿は統語論や意味論の観点を取り入れて、先行研究の妥当性を検証し、流行語に見られる文法的バリエーションの実態を浮き彫りにする。

以下、第2節では、先行研究の問題点を指摘し、本稿の立場、及び研究方法を示す。具体的に、「品詞の脱カテゴリー化」という観点を取り入れて、流行語に見られる文法的バリエーションの実態を検証する。第3節では、名詞の脱カテゴリー化現象について検討し、第4節では、形容詞の脱カテゴリー化現象について分析を行う。第5節では、「*nau*」の文法的バリエーションについて考察し、第6節では、新たに得られた知見をまとめる。

2. 先行研究と本稿の立場

いわゆる流行語について文法的バリエーションの観点からの研究は管見の限りまだ少ないようである。これまでの研究(米川1989, 糸井1997: 84-89, 米川2013: 84-91)は、ほとんど単語の形態的特徴、文化との関連に主眼をおいて分析がなされているようである¹⁾。その成果は例えば、「流行語においては『~的』『~化』『~性』という接尾辞は述語に多く、ほとんど一字の用言性の漢語についている」(米川1989: 108-109)、「省略を通じて新語を造る場合がある」(米川1989: 122-125)といった記述がある。こうした記述は流行語に関する研究に役立つかもしれない。しかし、このような記述だけでは、流行語の統語的特徴や意味的特徴をとらえる上で充分ではないように思われる。

言語が時間とともに変化しつつある。さらに流行語が言語変化の一つのものとしてとらえられるので、その形成はバリエーションと関係があると思われる。つまり、

¹ 891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1 鹿児島国際大学大学院国際文化研究科博士後期課程

The International University of Kagoshima Graduate School Intercultural Studies Doctor Program, 8-34-1 Sakanoue, Kagoshima 891-0197, Japan
2018年5月25日受付, 2018年7月20日採録

流行語の全体的な傾向を示すためには、文法的バリエーションの観点から欠いてはならない。確かに、流行語においては、接辞、省略という形態的特徴が見られる。この点においては、米川（1989）の指摘が妥当だと言える。しかし、米川（1989）の流行語における接辞、省略という形態的特徴に関する記述では具体的な文環境（context）や文例などが示されていないため、詳細な考察がなされているとは認めにくい。さらに、米川（1989）では、語義解釈のレベルにとどまって流行語を観察している。しかし、流行語の特質を考える場合、語彙レベルの観点だけでは流行語の生まれる原因や文法的特徴を明確にすることができない。文レベルまで掘り下げることで始めて流行語に見られる文法的バリエーションのことを明らかにすることが可能である。つまり、先行研究で示された理論枠組みでは、下記の例(1)(2)のような現象については、十分に説明することができない。

(1) エロカッコイイを意識して、まだまだ。(『朝日新聞』2017年2月24日)

(2) その人は同時に SNS 依存でもあったそうで、診療中もスマホを手放せず、「精神科なう」と投稿。(『毎日新聞』2017年12月8日)

例(1)の「エロカッコイイ」、例(2)の「なう」はそれぞれ2006年度と2010年度の流行語として選ばれたものである。そのような流行語について考える場合、米川（1989）で示された「接辞」「省略」といった観点だけでは、それぞれが生まれる原因や文法的特徴を十分に説明することができない。さらに、なぜ例(1)における「エロカッコイイ+を」の形で許容されるか、例(2)における「なう」がどのような意味分布を持つかについては、先行研究では説明がなされていない。

「エロカッコイイ」はナ形容詞の「エロ」とイ形容詞の「カッコイイ」からなっているものである。しかし、例(1)の「エロカッコイイ」は格助詞の「を」を伴うことによって、名詞的特徴を持つようになっていく。つまり、形容詞のカテゴリーを離脱してしまったのである。先行研究に対して、本稿は大まかな形態分析、語義説明から一歩進んで、脱カテゴリーという観点を取り入れて流行語に見られる文法的バリエーションを検証したい。いわゆる「脱カテゴリー化現象」について、本稿は「もともとの意味・機能から逸脱し、他の品詞の役割を担う現象」のように定義する。

例(2)における「なう」は英語の「NOW」のことである。『新明解国語辞典』（2013）や『学研現代新国語辞

典』（2002）ではカタカナ語としての「ナウ」の品詞について形容動詞として位置付けられている。しかし、例(2)のように場所名詞に後続した「なう」は接尾辞のような役割を担っていると考えられる。つまり、例(2)における「なう」は文法概念を表す接辞のような機能語としてとらえられ、文法的バリエーションのカテゴリーのものとして認められる。このことから、流行語のあり方について考える場合、文法的バリエーションの観点も取り入れるべきである。少し説明を加えれば、流行語に見られる文法的バリエーションについて考える場合、統語論的分析、意味論的分析に基づいて、品詞の脱カテゴリー化現象も視野に入れなければならない。

さらに、本稿は日本の『流行語大賞』に収録された2000年から2016年までのベスト10に入った流行語を研究の対象とする。具体的に言えば、『朝日新聞』『毎日新聞』『週刊ポスト』などの新聞や雑誌から得られた実用例に基づいて考察を加える。

3. 名詞の脱カテゴリー化現象

名詞の脱カテゴリー化現象については、さらに名詞の動詞化現象と名詞の形容詞化現象のように二分することができる。当然のことながら、このような名詞の脱カテゴリー化現象は文法的バリエーション（統語的バリエーションや意味的バリエーション）をもたらず。まず名詞の動詞化現象がもたらす文法的バリエーションをみる。

3.1. 名詞の動詞化現象

名詞の動詞化現象は「N+ってる」のような形によって実現される。「N+ってる」タイプは典型的な脱カテゴリー現象としてとらえられる。「神」は名詞であるにもかかわらず、「ってる」の形で用いられ、動詞的役割を果たすことがある。2016年度の流行語としての「神ってる」の基本形はいわゆる「神る」であると考えられる。「これから神る」「神るな」のような使い方があるからである。「神る」の語源を考えれば、「神懸かる」と関係があるようである。つまり、五段活用自動詞の「懸かる」は名詞の「神」と一緒になった場合、一部の音節が省略されたと考えられ、単純に「神」に語尾の「る」が付いたものではない。

(3) 「進学に関しては神ってるよ。怪しい風体の神様が、進路に悩む高校生に助言する。(『朝日新聞』2017年5月14日)

(4) そんなチームに今年、広島から加入した石井琢朗打撃コーチ(47)が「燕の神ってる男」として期待

を寄せる選手がいる。(『毎日新聞』2018年3月3日)

- (5) 「二刀流とも、神ってるとも戦いたい！新たな下克上の幕開けだ」がキャッチコピーだ。(『朝日新聞』2016年10月8日)
- (6) 野球でいうと「当たっている」、最近では神ってるなんて言ったりもするが、「絶好調」「マン・オブ・ザ・デイ」みたいな解釈だ。(『毎日新聞』2016年12月16日)

語構成の観点から見れば、例(3)(4)(5)(6)における「神ってる」は「N+ってる」タイプのものである。つまり、名詞に促音の「っ」が付いて、さらに動詞の語尾の「る」が付いたことによって、五段活用動詞のように振る舞い、名詞の動詞化を実現するのである。現代日本語においては、「N+ってる」現象が珍しいものではない。例えば、「ラミってる」「ストーリーってる」「ジェラってる」「disってる」も「神ってる」と同様な語構成特徴を持っているものである。

統語的特徴を見れば、「神ってる」は例(3)の「進学に関しては神ってるよ」のように述語として機能することが可能であり、例(4)の「燕の神ってる男」のように連体修飾語として機能することも可能である。また、例(5)における「神ってる」は格助詞の「とも」を伴うことによって、動詞の形をしていながら、体言のような統語機能を果たしているの、「神ってるとも」は「神ってる(人)とも」のように解釈することが可能である。さらに、例(6)における「神ってる」は副助詞の「なんて」を伴うことによって、動詞の補語的な機能を担うことが可能である。

3.2. 名詞の形容詞化現象

本稿でとらえる名詞の形容詞化現象は、もともと名詞でありながら、「N+な+N」のような形で用いられ、連体修飾関係を結ぶ現象を指す。2004年度の流行語としての「サプライズ」が「N+な+N」の形で修飾関係を構成するものである。

- (7) 事前に追加緩和観測はほとんど市場では流れておらず、サプライズな緩和となっていた。(『毎日新聞』2014年11月26日)
- (8) 浅草というワンダーランドで、明治にタイムスリップしたような空間とサプライズな天麩羅にはしゃぐ。(『東京カレンダー』2018年2月27日)

「サプライズ」については、『学研現代新国語辞典』(2002)や『新明解国語辞典』(2013)では、名詞として位置付けられている。しかし、例(7)(8)における「サ

プライズ」は名詞的意味・機能を果たしているわけではない。その意味・機能については、むしろナ形容詞として認めなければならない。そもそも「サプライズ」は英語の「surprise」から来た表現であり、「予期せぬことが起きて驚かせる」という名詞的意味を担うものである。例(7)(8)における「サプライズ」の意味・用法は名詞のカテゴリーを逸脱し、ナ形容詞のはたらきを持っているのである。これも文法的バリエーション現象の一つとして認められる。

「サプライズ」のほか、2008年度の流行語としての「アラフォー」も名詞の形容詞化現象として認められる。

- (9) 「いますぐ着たい」と感じる服が充実しているのです。さらに、アラフォーな大人がかつて夢中だった、90年代ストリーートの感性が息づいていることも見逃せません。(『毎日新聞』2018年3月19日)
- (10) 友達ほぼゼロなのも考えたら母親との会話を元ネタ作りしたら丁度アラサーからアラフォーなネタになるのでは。(『ツイッター検索』2018年5月6日)

「アラフォー」の品詞については、名詞として位置付けられるのが普通である。天海祐希主演のテレビドラマ『Around40』から広まった言葉で40歳前後のことを指すものであり、特に女性を指す名詞的意味を含むものである。しかし、例(9)(10)における「アラフォー」はもとの名詞的はたらきをせず、「アラフォーな」の形で名詞の「大人」「ネタ」を修飾し、形容詞の役割を果たしているのである。このような現象も文法的バリエーションの一つとしてとらえられる。

このように、流行語としての「神ってる」や「サプライズ」などがもとの名詞的意味・機能を果たすことができなく、動詞として用いられ、形容詞の意味・機能を果たしたりすることによって文法的バリエーションを実現しているのである。

4. 形容詞の脱カテゴリー化現象

形容詞の脱カテゴリー化現象は主にイ形容詞の名詞化に分布している。2006年度の流行語としての「エロカッコイイ」がそれに当たるものにほかならない。例えば、下記の例(11)(12)における「エロカッコイイ」は新たな意味が賦与されるだけでなく、統語機能も形容詞のカテゴリーを逸脱したものである。

- (11) エロカッコイイを意識して、まだまだ。(例(1)を再掲)
- (12) エロカッコイイ雰囲気アメリカっぽく演出！エ

ロカッコイイで男臭く演出！（「RAKUTEN スーパー」
item.rakuten.co.jp/candytower/zk206481）

語構成の観点から見れば、「エロカッコイイ」はナ形容詞の「エロ」とイ形容詞の「カッコイイ」からなっている複合語として認められる。しかし、例(11)(12)における「エロカッコイイ」は形容詞の語尾を有しているにもかかわらず、本来の形容詞的はたらきをしていない。例(11)の「エロカッコイイ」は直接に格助詞の「を」を伴い、述語の目的語として機能している。例(12)の「エロカッコイイ」は格助詞の「で」を伴い、名詞として文を展開させているのである。つまり、これらの文における「エロカッコイイ」は形容詞のカテゴリーを逸脱し、名詞のような振る舞いをしていのである。

例(11)(12)における「エロカッコイイ」は、直接に格助詞の「を」「で」を伴っているので、文法ルールを無視した表現としてとらえられる。従来の「イ形容詞」の名詞化は必ず「さ」「め」「げ」「み」といったような接尾辞を欠かせてはならない。しかし、例(11)(12)における「エロカッコイイ」は形態的には形容詞の特徴を保っているが、名詞的意味・機能を果たしているため、形容詞のバリエーションとしてとらえられる。

流行語としての「エロカッコイイ」は「肌を露出するが、身なりがかっこいい様子」を表すものである。もともと「エロ」はマイナスの評価の意味を含むが、「カッコイイ」と一緒になって複合語を構成することによって、マイナスの意味が漂白され、プラス評価へと変わったのである。つまり、マイナスの意味としての「エロ」はプラスの意味としての「カッコイイ」と共起することによって、意味の漂白化（semantic bleaching）を実現したのである。

5. 「なう」の文法的バリエーション

この節では、コーパスから抽出した実例に基づいて、2010年度の流行語としての「なう」の文法機能に着目して分析を試みる。いわゆる「文法化」は独立性を持つ実質語（名詞、動詞、形容詞など）がもとの意味・機能を失い、従来になかった文法機能を帯びようになる言語のバリエーション現象である。

2010年度の流行語としての「なう」はそもそも英語の「NOW」から来たものであり、カタカナ語の「ナウ」の形で形容動詞として用いられるのが普通である。しかし、2010年度から、英語の「NOW」でもなく、またカタカナ語の「ナウ」でもなく、平仮名の「なう」という

形で用いられるようになった。これは日本の Twitter から頻繁に使用し始めている。

流行語としての「なう」は格助詞を伴うことがあるので、「トキ名詞」²⁾ や接続詞として認めても良さそうである。また、「なう」は実質語の独立性を失い、機能語としての役割を果たすようになっていいる。このような「なう」の意味・機能については脱カテゴリーのものとしてとらえられる。「なう」の文法的特徴について言えば、格助詞を伴うほかに、名詞や動名詞に後続したり、述語に後続したりすることがある。まず格助詞を伴う場合の意味・用法を見る。

5.1. 格助詞を伴う場合

「なう」はもともと「ナウ」の形で形容動詞として用いられ、「現在、たった今」という時間的意味を表すものであるが、例(13)(14)(15)(16)に示すように、格助詞の「に」を伴う場合がある。「現在、たった今」を表すがゆえ、そのような文における「なうに」は「とき（場合）に」で置き換えることが可能である。

(13) 出演者の3ショットを貼付して「ラジオなう」とツイートしたり、「2時に使っていていいよ」と今流行中の「彼氏とデートなうに使っていていいよ」に引っ掛けたツイートをしていた。（「女性自身」2017年6月16日）

(13) 出演者の3ショットを貼付して「ラジオなう」とツイートしたり、「2時に使っていていいよ」と今流行中の「彼氏とデートのとき（場合）に使っていていいよ」に引っ掛けたツイートをしていた。

(14) 森山直太郎が、新曲「絶対、大丈夫」のWEB CMとして「彼女視点」で描かれた妄想寝起きムービー「彼氏に歌で起こしてもらったなうに使っていていいよ。」を公開した。（「RealSound」2017年7月20日）

(14) 森山直太郎が、新曲「絶対、大丈夫」のWEB CMとして「彼女視点」で描かれた妄想寝起きムービー「彼氏に歌で起こしてもらったとき（場合）に使っていていいよ。」を公開した。

(15) 流行と言え、流石というべきか TOYOTA の公式サイトでは「彼女とモーターショーなうに使っていていいよ」「彼氏とモーターショーなうに使っていていいよ」という流行を意識したページができていた。（「毎日新聞」2017年11月19日）

(15) 流行と言え、流石というべきか TOYOTA の公式サイトでは「彼女とモーターショーのとき（場合）に使っていていいよ」「彼氏とモーターショーのとき（場合）に使っていていいよ」という流行を意識したページ

ができていた。

(16)「彼氏がランニングデートではしゃいじゃってる。なうに使っていいよ」とコメントを添え、陸上トラックの様な場所でジャンプする写真を1月31日に公開したおばたのお兄さん。(『毎日新聞』2018年2月2日)

(16)「彼氏がランニングデートではしゃいじゃってる。そのとき(場合)に使っていいよ」とコメントを添え、陸上トラックの様な場所でジャンプする写真を1月31日に公開したおばたのお兄さん。

前置要素に注目すれば、例(13)における「なう」は動名詞の「デート」に後続し、例(14)における「なう」は補助動詞としての「もらった」に後続している。また例(15)における「なう」は名詞の「モーターショー」に続き、例(16)の「なう」は文頭に現れ、いわゆる接続詞のような振る舞いをしているのである。

しかし、目を後置要素に転じて見れば、「なう」のあとには時間を表す格助詞の「に」が現れているのである。例(13)(14)(15)のように、前に名詞や補助動詞を受けて、後に格助詞の「に」を伴うことによって、「なう」はいわゆる「トキ名詞」という状況語の意味・機能を担うことになる。例(13)の「デートなうに」、例(14)の「もらったなうに」、例(15)の「モーターショーなうに」はそれぞれ「デートのとき(場合)に」、「もらったとき(場合)に」、「モーターショーのとき(場合)に」のように「とき」や「場合」で置き換えることが可能である。

また、例(16)のように、文頭に現れた「なう」は格助詞の「に」を伴うことによって、「そのときに」や「その場合に」のように置き換えることが可能である。このことから「なう」はもとの形容動詞のカテゴリーを脱して新たに意味・機能を有するようになったと言える。例(13)(14)(15)(16)に示すように、「なう」のこのような脱カテゴリー現象は統語的バリエーションや意味的バリエーションをもたらしていると認められる。

5.2. 名詞や動名詞に後続する場合

「なう」のバリエーションについては、格助詞を伴うことによってトキ名詞や接続詞のはたらきをするほか、名詞や動名詞に後続することによって接尾辞的役割として機能することもある。このような「なう」はもとの形容動詞の意味・機能と異なることはいうまでもなく、トキ名詞や接続詞として機能する場合の意味・機能とも異なっているのである。つまり、接尾辞のような意味・機能を果たしているのである。名詞に後続する「なう」は、

さらに場所名詞に後続する場合、普通名詞に後続する場合、人を表す名詞に後続する場合のように分けて考えることが可能である。

「なう」が場所名詞に後続する場合、存在動詞が現れていなくても、「そこに存在している」という意味を表す。このような見解は次の例(17)が例(17)例(17)のように置き換えたり、翻訳したりすることができることによって裏付けられる。

(17) 渋谷区役所なう。

*なう渋谷区役所。

(17) いま渋谷区役所にいます。

(17) I am in Shibuya City Office now.

統語的特徴の観点から見れば、「なう」は「なう渋谷区役所」のように文頭において機能することができず、場所名詞の「渋谷区役所」に後続し、「渋谷区役所なう」のような形で意味を表すのが普通である。このような「なう」は接尾辞のように振る舞い、例(13)(14)(15)(16)における「なう」と異なるはたらきをするものとして認めなければならない。つまり、「なう」は実質語のカテゴリーから逸脱し、機能語(接尾辞)的役割を果たしている。5.1で言及したトキ名詞、接続詞的意味を表したりするものである。しかし、「渋谷区役所なう」のように場所名詞に後続すると、現在いる場所や置かれた状況という意味を表すことになる。

(18) その人は同時に SNS 依存でもあったそうで、診察中もスマホを手放せず、「精神科なう」と投稿。(例(2)を再掲)

(18) その人は同時に SNS 依存でもあったそうで、診察中もスマホを手放せず、「いま精神科にいる」と投稿。

(19) このツイートに対してファンからは「私も仲間に入れてください!」「涼真くんの家なう!」などのツイートが寄せられていた。(『毎日新聞』2017年11月6日)

(19) このツイートに対してファンからは「私も仲間に入れてください!」「いま涼真くんの家にいる!」などのツイートが寄せられていた。

(20) 学校のトイレなう。(『twitter profile』2018年4月25日)

(20) いま学校のトイレにいる。

(21) その愛らしい姿に「温泉デートしているみたいでいいね」「彼女と温泉なう」と、多くの反響が寄せられている。(『毎日新聞』2017年11月8日)

(21) その愛らしい姿に「温泉デートしているみたいで良いね」「いま彼女と温泉にいる」と、多くの反響が寄せられている。

例(18)(19)(20)(21)における「精神科なう」「家なう」「トイレなう」「温泉なう」などは「渋谷区役所なう」と同様に「いま～にいる」のように置き換えて言うことができる。また、「なう」は「コスメ」「ラジオ」「話題」などのような普通名詞と共に起して使うことも可能である。

(22) とれたたてホヤホヤ韓国小顔コスメなう！新作が続々と登場する韓国コスメ。(『毎日新聞』2018年3月1日)

(23) また、Yahoo! トップの「話題なう」にも「NHK どうした」が入っています。(『毎日新聞』2018年1月8日)

(24) 出演者の3ショットを貼付して「ラジオなう」とツイートしたり、「2時に使っていていいよ」と今流行中の「彼女とデートなうに使っていていいよ」に引っ掛けしたツイートをしていた。(例(12)を再掲)

(25) ツイッターでも LINE でも、100キロ離れたことや3年先のことはわからなくても、「ランチなう」と、いまを隣りに書ける。(『毎日新聞』2018年4月13日)

(26) 国立新美術館(港区六本木7)で4月11日から、約300匹のこいのぼりが展示室をダイナミックに泳ぎ回るインスタレーション「こいのぼりなう!」の展示がスタートする。(『みんなの経済新聞』2018年4月11日)

統語的特徴を見れば、例(22)(23)(24)(25)(26)における「なう」はそれぞれ普通名詞の「コスメ」「ラジオ」「話題」「ランチ」「こいのぼり」に後続している。しかし、これらの文における「なう」は形容動詞、トキ名詞、接続詞の意味・機能を果たしているわけではない。むしろ接尾辞のような振る舞いをしてしていると認めなければならない。意味的特徴に目を転じて見れば、例(22)(23)(24)(25)(26)における「なう」は眼前の状況を表したり、現在進行を表したりしていると認められる。

「なう」は例(27)(28)(29)のように人を表す名詞を受けることがある。そのような意味関係が結ばれた場合、「～の今」のように置き換えたり、解釈したりすることが可能である。以下の例(27')(28')(29')がその裏付けにほかならない。

(27) 学内施設の「アトリエ2」には、卒業生の現況を全身写真のタペストリーと共に紹介する交流コー

ナー「センパイなう」も設ける。(『みんなの経済新聞』2018年2月23日)

(27') 学内施設の「アトリエ2」には、卒業生の現況を全身写真のタペストリーと共に紹介する交流コーナー「センパイの今」も設ける。

(28) そして「サレ妻なう」な方は、観るのがつらいと思うかもしれないけど、心の拠り所になればいいなと思います」と続ける。(『毎日新聞』2018年1月22日)

(28') そして「サレ妻の今」な方は、観るのがつらいと思うかもしれないけど、心の拠り所になればいいなと思います」と続ける。

(29) 実は、佐藤二朗のTwitter投稿は以前から「面白い」と話題になっており、2016年7月には切なくも笑える117のつぶやきを厳選した初著書『佐藤二朗なう』が、昨年12月には第2弾『のれんをくぐると、佐藤二朗』が刊行されている。(『毎日新聞』2018年3月12日)

(29') 実は、佐藤二朗のTwitter投稿は以前から「面白い」と話題になっており、2016年7月には切なくも笑える117のつぶやきを厳選した初著書『佐藤二朗の今』が、昨年12月には第2弾『のれんをくぐると、佐藤二朗』が刊行されている。

統語的特徴に注目すれば、例(27)(28)(29)における「なう」はそれぞれ人を表す名詞の「センパイ」「サレ妻」「佐藤二朗」に後続し、接尾辞的役割を果たしているのである。例(27)(28)(29)における「センパイなう」「サレ妻なう」「佐藤二朗なう」は「センパイの今」「サレ妻の今」「佐藤二朗の今」のような意味を表していると考えられる。

しかし、次の例(30)(31)(32)(33)(34)における「なう」については、同様な解釈ができない。「なう」は「動名詞+なう」の形で使われる場合、今の状態を表すので、そのような場合の「なう」は接尾辞としての「～中」で置き換えることが可能である。

(30) 「掃除&断捨離なう」今ではたまにそんなつぶやきを見かけます。(『毎日新聞』2013年2月8日)

(30') 「掃除&断捨離中」今ではたまにそんなつぶやきを見かけます。

(31) 「PV撮影なう!」と題して更新されたアメブロは、「本日は、12/6発売 New Single 『NEVER ENOUGH』のPV撮影なうです!」(『毎日新聞』2012年12月22日)

(31') 「PV撮影中!」と題して更新されたアメブロは、「本日は、12/6発売 New Single 『NEVER ENOUGH』のPV撮影中です!」

(32) フリーアナウンサーの長野智子さん (55) も「羽生選手、完全復活!! もう観ながら号泣なうです」。タレント・中川翔子 (32) は「!!! てん!!! りぎゃああああああああああああああああ」と驚きを隠せない様子。(『スポーツ報知』2018年2月16日)

(32') フリーアナウンサーの長野智子さん (55) も「羽生選手、完全復活!! もう観ながら号泣中です」。タレント・中川翔子 (32) は「!!! てん!!! りぎゃああああああああああああああああ」と驚きを隠せない様子。

(33) 7月9日に候補者が「Twitter」に「応援よろしくお願いします!」と投稿したツイートを、7月10日に「投票なう」というコメントつきでリツイートした。(『毎日新聞』2016年6月25日)

(33') 7月9日に候補者が「Twitter」に「応援よろしくお願いします!」と投稿したツイートを、7月10日に「投票中」というコメントつきでリツイートした。

(34) 城戸は減量が大変そうで「ずっと摂生しているのに、体重落ちなすぎて断食なう。断食に勝る減量なし!」と、断食生活に入ったことを告げる。(『毎日新聞』2018年3月16日)

(34') 城戸は減量が大変そうで「ずっと摂生しているのに、体重落ちなすぎて断食中。断食に勝る減量なし!」と、断食生活に入ったことを告げる。

例 (30) (31) (32) (33) (34) における「なう」はそれぞれ動名詞の「掃除・断捨離」「PV 撮影」「号泣」「投票」「断食」に後続している。「掃除・断捨離なう」「PV 撮影なう」「号泣なう」「投票なう」「断食なう」はいずれも「掃除・断捨離中」「PV 撮影中」「号泣中」「投票中」「断食中」のように解釈することができるので、そのような振る舞いをする「なう」は実質語のカテゴリーを逸脱したものとしてみられる。アスペクトの観点から見れば、「掃除する」「撮影する」「号泣する」「投票する」「断食する」といった動詞は継続動詞である。継続動詞であるがゆえ、接尾辞の「～中」の後続が許容される。しかし、瞬間動詞の場合は接尾辞の「～中」の後続が容認されない。

(35) それまで、私はどちらかというルーズなことも前面に出すほうで、例えば、打ち合わせの時間に遅れると携帯電話で遅参の連絡をした後に「遅刻なう」とやっている Twitter などを書くのが日常でした。あるとき、赤坂のタリーズで竹田さんとの待ち合わせに数分遅れ「遅刻なう」と書いてから走っていき竹田さんと会うのですが、怒った風でもなく、

ただ穏やかに「山本さんはもう『遅刻なう』と書かないほうがいい」と淡々とお話をされたのでした。(『毎日新聞』2016年1月11日)

(36) また、Twitter で「即日控訴完了なう」と報告している。(『毎日新聞』2018年4月23日)

「遅刻する」「完了する」は瞬間動詞としてとらえられる。瞬間の出来事を表す動詞であるので、始まりと終わりの間を想定しにくい。そのため、接尾辞の「～中」の後続が容認されない。瞬間動詞に後続する「なう」は「今～している」「～してしまった」のような意味を表すものとしてとらえられる。

ただし、継続動詞に後続した「なう」は接尾辞の「～中」で置き換えられると言っても、「なう」と接尾辞の「～中」はまったく同じわけではない。例 (37) (38) (39) (40) (41) (42) における「なう」は「～中」で置き換えることができない。

(37) 今すでに旅行中なう。(『twitter ツイッター検索』2018年5月6日)

(38) こちらでライブ配信中なう。(『twitter profile』2018年4月25日)

(39) ハンティングカード整理中なう。(『twitter profile』2018年4月25日)

(40) わたくしシシクロニシティ鑑賞中なうです。(『twitter profile』2018年4月25日)

(41) 澤村悠希 (「さわ」、恋愛苦手体質の高身長イケメン)、こーたこと鈴木絃拓 (「こーた」、失恋傷心中なう! 恋多き料理男子)。一話終了時点で、こーたとなぎが両思い。(『毎日新聞』2017年11月16日)

(42) また、同日に「#GENE 高収録中なう」のハッシュタグと共に、ショッピングモールでロケをしている GENERATIONS from EXILE TRIBE メンバーの画像をアップ。(『毎日新聞』2018年4月4日)

統語的特徴を見れば、例 (37) (38) (39) (40) (41) (42) における「なう」はそれぞれ動名詞の「旅行」「配信」「整理」「鑑賞」「失恋傷心」「高収録」に後続した接尾辞の「中」に続いている。そのような文における「なう」は接尾辞の「～中」で置き換えることができない。とは言っても、「なう」は実質語のカテゴリーを逸脱し、接尾辞として機能していることには変わりがない。例 (37) (38) (39) (40) (41) (42) における「なう」の意味・機能も文法的バリエーションの一つとして認められる。

5.3. 述語に後続する場合

コーパスを調べたところ、「なう」は動詞述語、形容

詞述語や副詞述語に後接する意味・用法が見られた。そのような意味・用法は新しい現象としてとらえられ、本来日本語の文法規則に見られない現象であるので、日本語表現の文法的バリエーションとしてとらえられる。まず、「なう」が動詞述語に後続する現象を見る。

(43) 同氏は暴行を受けて間もない14年9月28日にフェイスブックでパチンコで儲けたことに「昨日、今日と俺は、運が良すぎるなう！」と書き込んでいる。(『毎日新聞』2018年1月26日)

(44) 益若は「タクシー。おじさんにずっと学生さんだと思って話しかけられてますなう。」とタクシーに乗ったら運転手と思われる男性に学生に間違われたとツイート。「違うと言ったけど変わらず将来の夢とか原宿について質問されています。」と、否定したにも関わらず、運転手の質問内容は変わらなかったと明かした。(『毎日新聞』2018年3月21日)

(45) 写真に「振り返ったら彼氏が橋かけてたなう。につかっていいよ。」というコメントと「#これは何待ち？ #くぐればいいの？」(『毎日新聞』2018年3月29日)

(46) 宣材写真撮影の際に撮られたばかり決まった写真を投稿し「彼氏がかっこよすぎてこれ以上近付けないなう」とうぬぼれた。(『毎日新聞』2017年6月15日)

例(43)(44)(45)(46)における「なう」は動詞述語に後続している。修飾語が被修飾語の後において修飾機能を果たす現象は本来ならあり得ない。そのような新たな意味・用法は連用修飾語の文法的カテゴリーを脱するものである。例(43)における「なう」は動詞フレーズの「良すぎる」に後続し、例(44)における「なう」はテ形補助動詞の「～ています」に後続している。また、例(45)における「なう」はテ形補助動詞の完了形の「～た」に続き、例(46)における「なう」は動詞否定形に続いている。これらの「なう」は動詞述語を受けて、文末に現れているので、接尾辞のようなはたらきをしているものである。次は、形容詞述語に後続する「なう」の意味・用法を見る。

(47) また、新スポンサーにいち早く名乗りを上げていた高須クリニックの高須克弥院長は、Twitterに「悔しいなう」と投稿し、ブログも更新した。(『ザレビジョン』2018年2月5日)

(48) 晴れて暑いなう。(『twitter profile』2018年4月25日)

例(47)(48)における「なう」はイ形容詞の「悔しい」「暑い」に後続し、状態を補足的に説明するという役割

を果たしている。つまり、例(47)の「悔しいなう」は「今は悔しい」のように置き換えて言うことが可能であり、例(48)の「暑いなう」は「今は暑い」のように解釈することが可能である。このようなはたらきをする「なう」は脱カテゴリーのものとして見なしても差支えがないだろう。流行語としての「なう」はさらに副詞に続いて用いられることがある。

(49) 田さんはこの直前、男性2人と一緒に写った写真とともに「今日は家でゆったりなう」と投稿していた。(『毎日新聞』2018年3月12日)

(50) お通しや席料などがなく、カウンターメインの立ち飲み屋っぽいスタイルがウケ、2008年、日本語版のツイッターがスタートしたばかりのころには、旭川人のツイートに「のらくらなう」の文字が躍り、そのツイートがしたくてお店へ行く人もいたほどの旋風を起こした「のらくら」をご紹介します。(『毎日新聞』2018年1月26日)

「ゆったり」の品詞については、筆者の調べでは副詞として位置付けられているが、「のらくら」については、『明鏡国語辞典』(2011)では副詞として位置付けられているのに対して、『国語大辞典』(1981)では副詞・形容動詞として位置付けられている。例(50)における「のらくら」の意味・機能について本稿は副詞として認める。副詞に続く場合の「なう」の意味・用法も脱カテゴリーのものとしてとらえられ、「ゆったりなう」「のらくらなう」については、「ゆったりとしている」「のらくらしている」のような意味構造のものとしてとらえられる。「ゆったりなう」「のらくらなう」のような表現は文法的バリエーションの一つとして認められる。

まれな現象であるが、流行語としての「なう」が終助詞の「ぞ」や「よね」を受けて文末に現れることもある。

(51) 高須院長は18日、ツイッターに「ホテルニューオオタニに顧問弁護士の伊藤先生に来てもらって作戦会議終了した。明日の朝、民進党大西健介議員と蓮舫代表を提訴するぞなう」と投稿した。(『AbemaTIMES』2017年5月21日)

(52) 高須院長はその後「ナイジェリアのサッカーチームがメダル取ったら褒美はいくら？って問い合わせが来たので『全員にもれなく、金メダル300万円、銀メダル200万円、銅メダル100万円を各自に手渡す』と伝えたぞなう」とツイートしており、メッセージは伝わった模様。(『毎日新聞』2016年8月13日)

(53) また、「女の人が最近子どもを産んでね。才能が

あるバンドなんだよ」と語ったともいい、益若は「そうですね 凄いですよね～なう」と共感していた。(『毎日新聞』2018年3月21日)

伝統的な文法学では、終助詞が文末に現れた場合、文が完結されなければならない。しかし、例(51)(52)(53)のような表現は伝統的な文法学の観点から見れば、そのようなルールを違反したものとして認めなければならない。2010年度の流行語として選ばれた「なう」はこのような反則的な使い方を可能にしたのである。そのような文法的におかしい表現は意味的には「今は提訴するぞ」「今は伝えたぞ」「今は凄いですよね」のように解釈することができるので、脱カテゴリーを通して文法的バリエーションを実現したのである。つまり、「なう」は時間の意味を表すと同時に、文を言い切る意味・機能を備え付けているのである。

6. まとめ

以上、これまでの研究と異なり、統語論的分析、意味論的分析に基づいて、文法的バリエーションの観点から品詞の脱カテゴリー化現象を明らかにした。分析の結果を改めてまとめると、次のようになる。

- ①名詞の脱カテゴリー化現象は、「N+ってる」「N+な+N」のような形に分布している。
- ②形容詞(イ形容詞)の脱カテゴリー化現象は、格助詞の「を」「で」を伴うことによって顕現される。
- ③流行語としての「なう」の意味・用法は、格助詞の「に」を伴う場合、名詞や動名詞に後続する場合、述語に後続する場合のように分布している。
- ③-1格助詞の「に」を伴う場合は「～とき(場合)」のように置き換えられ、トキ名詞や接続詞のようなはたらきをする。
- ③-2場所名詞に続く場合は「今～にいる」のような意味を表し、普通名詞に続く場合は眼前の状況や現在進行ということを含意する。人を表す名詞に続く場合は「～の今」のように置き換えられる。継続動詞に続く場合は「～中」で置き換えられるが、瞬間動詞に続く場合は「～中」で置き換えることができない。
- ③-3形容詞に後続する場合は「今はそのような状態である」という意味を表す。さらに終助詞の「ぞ」や「よね」を受けて文末に現れていることもある。

このように、「なう」は実質語(形容動詞、トキ名詞や

接続詞)から機能語(接尾辞の役割)へ変身し、意味・機能の脱カテゴリーを通して文法的バリエーションを実現するのである。

注

- 1) 糸井(1997: 84-89)と米川(2013: 84-91)では、それぞれ造語法・修辞、使用心理の観点から流行語を研究しているが、本稿の文法的バリエーションに関する考察とあまり関係がないので、ここでは触れないことにする。
- 2) 益岡(2013: 11)では、「トキ名詞」という用語が使用されている。

文献

- 米川明彦(1989)『新語と流行語』東京:紀伊國屋書店。
 森田良行(1991)『語彙とその意味』東京:株式会社アルク
 篠崎晃一(1997)『流行語の発生と伝播』『国文学第』第42巻第14号, pp.52-56
 小沼悦(1997)『流行語と語彙』『国文学第』第42巻第14号, pp.73-78
 多門靖容(1997)『流行語の分野』『国文学第』第42巻第14号, pp.79-83
 糸井通浩(1997)『流行語の修辞・造語法』『国文学第』第42巻第14号, pp.84-89
 小谷野哲夫(1997)『流行語と若者ことば』『国文学第』第42巻第14号, pp.98-103
 小松秀雄(1999)『日本語進化のメカニズム—環境への適応としての言語変化—』『国語学』196集, pp.138-150
 大堀壽夫(2004)『文法化とはなにか』『月刊言語』P.26
 渋谷勝己(2009)『日本語のバリエーション』『子供のための言語学』2009年11月刊, pp.50-58, 明治書院
 仁田義雄(2010)『語彙論の統語論の観点から』東京:ひつじ書房
 三宅正隆(2010)『言語変異をめぐる視点:言語学から見た社会言語学』『立命館国際研究』22-3, pp.193-217
 新野直哉(2011)『現代日本語における進行中の変化の研究』東京:ひつじ書房。
 日比谷潤子(2011)『はじめて学ぶ社会言語学』東京:ミネルヴァ書房。
 益岡隆志(2013)『日本語構文意味論』東京:くろしお出版
 米川明彦(2013)『日本語の攻防』『語彙』若者語・流行語の戦い』『日本語学』第32巻第3号, 明治書院, 84-91
 岡田祥平(2013)『Twitterを利用した新語・流行語研究の可能性』『新潟大学教育学部研究紀要』第6巻第1号。
 高田創(2013)『流行語大賞4語からみた2013年日本の転換』『みずほ総合研究所リサーチ TODAY』
 新野直哉(2014)『近現代日本語における新語・新用法の研究』『国立国語研究所』ISSN 2185-0127共同研究報告13-03。
 田中春美・田中幸子(2015)『社会言語学』東京:ミネルヴァ書房。